

会 議 録 (要 旨)

会 議 名	平成30年度第3回武蔵村山市子ども・子育て会議
開 催 日 時	平成31年3月25日(月) 午前10時から正午まで
開 催 場 所	301会議室(武蔵村山市役所3階)
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：佐々委員(会長)、布田委員(副会長)、志茂委員、乙幡委員、大熊委員、齋藤委員及び谷治委員 欠席者：菅田委員、大友委員、前川委員、比留間委員及び田島委員 事務局：子ども育成課長、同課児童担当課長及び同課保育係係長
議 題	1 平成29年度子ども子育て支援事業計画進捗状況について 2 ニーズ調査の集計結果について 3 その他
結 論 (決定した方針、残された 問題点、保留事項等を記 載する。)	議題1：原案のとおり(ただし、一部の内容については今回の会議内容の質疑・提案等に沿って調査票を修正。)。次回の調査は年度の早い時期に行う。 議題2：原案のとおり承認 議題3：特になし
審 議 経 過 (主な意見等を原則とし て発言順に記載し、同一 内容は一つにまとめる。)	<p>1 開会 事務局より委員への「武蔵村山市子ども・子育て支援事業計画(平成32年度～平成36年度)」諮問について説明</p> <p>(会 長) 今回、この会議は次期5年間の計画策定について諮問されたことになるが、現計画期間中の平成30年度、平成31年度のことでも大事なことである。年度による切れ目などないよう対応しなければいけない。</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 平成29年度子ども子育て支援事業計画進捗状況について (事務局説明)</p> <p>配布資料は平成29年度末の状況のものである。</p> <p>項目番号7「延長保育事業」は1,104人増加している。保護者の長時間の仕事が増えたことによると思われる。項目番号10「病児・病後児保育事業」は利用増である。項目番号12「ショートステイ事業」は平成28年度に休止したが平成29年度に再開した。項目番号16「子ども家庭支援センター事業」は利用が増加。項目番号50「イベントへの健康コーナーの設置」は内容が毎年異なるものである。項目番号66「育児支援ヘルパー事業」は実績なしである。項目番号68「学校給食」は継続である。項目番号72「休日歯科急患診療事業」は延べ人数が増となっている。項目番号73「学校週休5日制対応事業」は土曜日チャレンジ学校への参加が減少。項目番号101「家庭教育講座」は毎年内容を変えて実施している。項目番号109「公共的建築物のバリアフリー化」は平成28年度ほど平成29年度の実施数はない。項目番号131「一体型の学童クラブ及び放課後子ども教室の設置」は実施箇所が増えている。</p> <p>平成29年度までの教育・保育の利用状況について、待機児童が徐々に増加している。平成31年4月は減る見込みだが正確な報告は4月以降となる。地域子ども・子育て支援事業について平成29年度の実績までを記載している。一時預かり事業は増加傾向にあ</p>

る。保育園以外の一時預かりも増加している。ショートステイは平成28年度実績0人日から29年度は10人日に増となっている。放課後児童健全育成事業は減少傾向にある。病児保育事業は増加傾向にある。ファミリー・サポート・センターはほぼ横ばいの実績である。利用者支援は平成28年度から保育コンシェルジュ事業の類似事業を実施している。

—質疑・応答—

(会 長) A B C Dの評価があり、数えるとDが結構あってAはあまり出てこない。Bが多い印象。これらをどのように見ていくかということだと思う。161項目に対してA～Dで見ていって平成29年度の見直しでこうなっているという報告だった。この計画期間はまだあと1年、平成31年度が残っている。この結果をどのように使っていくかが大事である。分析については詳細の説明がなかったが、次回会議では示されるか。

(事務局) 今回の報告は平成29年度実績になっているので、平成30年度実績を早く分析して報告したい。

(会 長) 今回の平成29年度と合わせて、平成30年度のもので見ていくということになるか。いつ頃行う想定か。

(事務局) 市の決算などが6月までかかる。その後で整理するため早くて8月となる見込み。

(副会長) 平成29年度進捗状況評価でCやDになっているところだけでも事務局で重点的に、早めに状況を把握していくことが大事ではないか。

(事務局) A評価のものもある。それらも含めて今後分析したい。

(会 長) 同じBでも数値の変動などで見るべきものがあれば見てほしい。これらは毎年ものを切れ目なく見ていかなければいけない。

(委 員) 「子ども家庭支援センター事業」は市の直営になるとのことだが、従来の体制との継続性をしっかり確保してほしい。これだけの人が利用しているのだから。

(会 長) 虐待の増加などもあり、自治体で状況把握して対応するよという国の通達等からの流れを受けての直営化と思われる。支援センターのことだけでなく、様々なことで子どもを取り巻く支援を切れ目なく、ということが最も求められることである。

(事務局) 子育て支援課が管轄し、職員は入れ替わるが事例などはしっかり引継を進めている。

(会 長) 子ども家庭支援センター事業の進捗状況はAとなっているが、これは平成29年度のこと、その後も国の方針などは多々出ている。

(副会長) P R 不足を補うことが大事と思う。広報は見る人と見ない人がいる。

(会 長) 民営から直営の変更はいつ広報されたか。

(委 員) 場所が変わらないのであまり大きく知らせていないのではないか。

(会 長) 子ども家庭支援センターは18歳までの広い層、課題を抱えた子どもたちに対応する大事なところである。利用者側への直営化のメリットなどもしっかり伝えられていないといけないのではないか。

(副会長) 人が変わるということは中身が変わるということでもある。

	<p>(会 長) これまで以上にきめ細かく、直営でやっていくというようなことを利用者が不安にならないようにしっかり伝えることが大事ではないか。教育・保育・学童などの最前線で動いている委員がいる。この会議でそこを説明してもらうことも大事である。</p> <p>(事務局) 子ども家庭支援センターの直営化については、市報の4月1日号で広報する。市の直営になること、センターの事業一覧などが掲載されている。今回のアンケートでも市報の占める役割は大きい。今後の情報入手希望ではSNS利用者なども多いのでそういった情報発信も検討しなければいけないかと考える。</p> <p>(会 長) 今回のアンケート調査結果は他の関連部署にどのくらい伝わっているのか。例えば広報担当などに、今後受け取りたい方法の希望などは伝わっているか。結果が伝わり改善を検討することが大事だろう。</p> <p>(委 員) 私たちの団体も保護者からの相談を受ける。そこで子ども家庭支援センターに連絡すると、今までは事情が分かっているで伝わりやすかった。市民団体と協働ができていたと思う。市の直営になった時に、市民の団体に対して連携を行ってもらえるのか。市民団体を信用して情報共有などはされるのか。</p> <p>(事務局) 所管課の子育て支援課に御意見を伝え、丁寧に対応することを依頼しておく。</p> <p>(委 員) 協力してもらえないと何もできなくなってしまう。</p> <p>(委 員) これまでも協力しあってきたほか、時間をかけながら家庭との信頼をつくってきた。それらは子ども家庭支援センターが核になって行われてきた。そういった、構築されてきた財産をしっかり継承してもらわなければいけないと思う。</p> <p>(会 長) 組織が変わることで、関連や協働のある方々に説明会をするなど、これまでの連携先にちゃんと説明しなければいけない。</p> <p>(副会長) 市の直営となると個人情報などの規制が更に厳しくなるかもしれない。もう来週に直営化なのだから説明会などは急がなければいけない。</p> <p>(委 員) 幼稚園には子ども家庭支援センターの方が来ていたが、他の団体ではそういうことがなかったのか。</p> <p>(委 員) これまでは子ども家庭支援センターと非常に密な連携ができていた。今後もその関係が維持できるかが不安なところ。</p> <p>(会 長) 現在まで子ども家庭支援センターで実務をしてきた方々の思いや現場の状況などが切れ目なく継承されていくようにしなければいけない。人、場所、流れなどが周囲の関係先にも分かるようにしてほしい。</p> <p>(事務局) 幼稚園に市からの知らせなどはなかったか。</p> <p>(委 員) 幼稚園には、子ども家庭支援センターが直営になりますというハガキがきた。</p> <p>(委 員) センターにはよく行くので、直営になるという話だけは聞いている。ただし現在勤務されている方とのやりとりである。今後來られる方とはやりとりはない。</p> <p>(会 長) 早急に関係先への周知を行わなければならないだろう。</p> <p>(会 長) まとめるが、平成29年度の実績が今回の報告で、平成30年のことは次回以降に報告ということでよいか。</p> <p>(事務局) 次回以降の早い段階に報告する。</p>
--	--

(2) ニーズ調査の集計結果について

(事務局説明)

本来本日の会議で製本されたものでお示ししたかったが、簡易製本版での説明となる。前回会議での報告からの相違点・追加項目などを説明する。保護者の就労状況について前回調査との経年比較を追加。問14の定期的な教育・保育事業の利用、利用していない3割の方も注視すべきである。問28は未就学児童保護者の回答による学童クラブ利用意向、小学生保護者の回答による実際の利用（利用していないが8割）とはずれがある。問32の子育てをされていて感じることは教育・保育事業利用の有無とのクロス集計を行っている。

—質疑・応答—

(委員) 学童クラブでは、子どもが行きたがらないという話も聞いたことがある。

(会長) 実態としてどのような問題があるのか、質の担保なども考えて、保護者にとっても子どもにとっても安心して使えるようにしていくこと、これは厳しいが大事なことである。学童には第三者評価はなかなかない。幼稚園、保育所にはあるが。体制づくりも検討が必要だが、学童の質の担保は今後の大きな課題、平成32年度以降の次期計画でも大きなポイントになるはずである。

(副会長) 学童の保護者会というものはあるのか。

(委員) 年に1回ある。学童の会長経由でアンケートをとっている。しかし回答は少ない。保護者側からは、出したアンケートへのフィードバックもほとんどないと感じる程度である。

(委員) 指導員の方は必要な資格というものがある。

(事務局) 現在、仕組みとしては学童の第三者評価はない。直営のところはやっているところはほとんどないだろう。委託の場合はあるかもしれない。学童の質について、基準は国が示し、市町村が条例で決める。指導者の資格は放課後児童支援員という国が示したものであり、都が研修する。完全に受講して一定レベルに達しないといけない。保育士などは受講資格がある。高卒の方が多いが実務2年以上で受講資格ができるというものである。この基準は今後緩和する方向とも聞く。

(会長) 人材を確保するためにも基準を緩めるということだろう。しかしながら質の担保については大事なことである。

(会長) アンケート結果については今回示されたもので委員の皆さんもよく見ていただき、今後の協議に役立てるようよろしくお願いしたい。

(会長) 貧困調査についてのアンケート結果などをこの会議に提示することは前回の会議で要望したが、どうなっているか。

(事務局) 担当者レベルでは、そういった情報も今後共有していこうと話をしているところである。そちらの担当からの説明や資料提供も検討したい。

(会長) 子ども家庭支援センターについては、ジャンルごとの相談件数や対応内容別の数なども見えた方が今後の対応には有効であると思われる。

(会長) 庁内、部署間の関わりや担当がなかなか見えない。連携の様子もなかなか見えないように感じる。この会議で出された平成29年度実績、アンケート結果、自由意見など、関連部署に伝えていくようにしていただかないといけない。他の部署

	<p>で対応すべきものもあるだろう。</p> <p>(会 長) 今回の調査の自由回答は、どの程度庁内で他部署に提供する のか。声としては、市への要望や市役所の対応など、良い 面悪い面とも意見があった。統計的内容だけでなく「声」を どのように他部署に提供するか。ぜひ提供してほしい。</p> <p>(事務局) 部レベルくらいで共有できればと考えている。部長を通じ て、全意見でなくても整理したものを提供できればと思っ ている。</p> <p>(副会長) 良いことを書いている意見もあり、それは職員の励みにも なるだろう。</p> <p>(会 長) アンケート結果については、委員の皆さんもよく読んでお いてもらいたい。</p> <p>(委 員) ネウボラ（フィンランドの制度、相談の場という意味）を 武蔵村山市でやります、ということも以前の会議であったか と思う。それはどうなったか。自由意見では窓口をあちこ ちら回されるというニュアンスの意見も多いが。</p> <p>(会 長) 国から様々な指示はおりてきているが、役所でそれを受け る、担当する部署が異なり、すぐ隣の部署でも知らないこと などよくある。まずは周知から始める必要がある。こういっ た会議でもどの案件がどの部署の担当かというようなこと が分からない。東京都の他自治体でも分かりにくい構造に なっているところはまだまだある。他自治体でそこを整理し たら、情報の途切れなど利用者からの印象がだいぶ変わった という話も聞く。</p> <p>(会 長) 可能なら、この子育て会議に各関連部署の担当が1人ずつ でも出てもらえるとよいのだが。</p> <p>(副会長) 全員は無理としても、議題に応じて係長以上くらいでも出 てくれるとよい。次回からでも検討してほしい。例えば今回 の平成29年実績報告でも、進捗状況がAの理由、Dの理由な ど、分かっている人からの説明があればよいと思う。</p> <p>(3) その他 (事務局説明)</p> <p>前回の会議録を本日配布した。疑義があればお知らせいただき たい。次回からの会議について、本日諮問があったが、今後6回 を予定、最初は6月くらいを目途と考えている。</p> <p>(会 長) 10月からの無償化に伴う資料なども次回には示してほし い。需要供給の関係とか、無償化がどう影響していくかなど も資料があるとよい。</p> <p>(事務局) 待機児童について、昨年4月は新定義で39名、今回4月1日 は同じ39名となる見込みである。年度途中での退所、申請の 取下げなどもあり、最終的には待機児童は減ると思われる。</p> <p>(会 長) 他になければ終了とする。</p> <p>3 閉 会</p>
--	--

<p>会議の公開・非 公開の別</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>公 開 <input type="checkbox"/>一部公開 <input type="checkbox"/>非 公 開 ※一部公開又は非公開とした理由 { }</p> <p>傍聴者： 0 人</p>
--------------------------------	--

会議録の開示・非開示の別	<input checked="" type="checkbox"/> 開示 <input type="checkbox"/> 一部開示(根拠法令等：) <input type="checkbox"/> 非開示(根拠法令等：)
--------------	---

庶務担当課	健康福祉部 子ども育成課 (内線：182)
-------	-----------------------

(日本工業規格A列4番)